

## 生涯研修プログラム

### 3. ミートザエキスパート 「実際シリーズ」

## 7) 臍帯穿刺・胎児輸血

九州大学講師 前 田 博 敬

1972年に Valenti が胎児鏡を用いて直視下に胎児血を採取したのが胎児採血の端緒である。1983年, Daffos et al. が超音波ガイド下で臍帯穿刺による胎児採血法を導入して以来, 本法は諸種の疾病胎児を対象に国内外で急速に普及し, その手技の確立に基づいて胎児輸血を主体とした子宮内治療が行われるようになった。われわれも, 1986年以来200余例の疾病胎児を対象に子宮内における病因および病態の検索を主目的として臍帯穿刺を

行ってきた。そこで今回は, われわれの経験を基に, 本法の, 1) 手技: 穿刺前の準備, 超音波ガイド下での穿刺部位の選択法, 胎盤の位置による穿刺針の刺入方法, 穿刺にあたつての実際上の問題点と難易度, 2) 安全性と有用性, 3) 胎児血の純度の決定法, 4) 適応, 5) ヒト胎児の発達生理学および発達薬理学を踏まえた経静脈的胎児内科的治療法について実際の動的画像も加えて概説する。

## 8) 形成外科的皮膚縫合

大阪大学形成外科講師 松 本 維 明

皮膚縫合といえば, 如何に巧みに縫合するかという技術のように思われがちであるが, 縫合技術だけできれいに治すことは困難である。実際, きれいに縫合するためには, 縫合すべき切り口がきれいに切られていなければ, きれいに縫合することが困難である。したがって, 我々は, 切除又は切開する段階から十分に注意して切るように心がけている。このような観点から, 今回は形成外科で行っている切除, 縫合術について述べてみたい。

我々が扱う症例は, 大部分が顔面の瘢痕であるので, 顔面の切除, 縫合術を中心に話を進めることになるが, 基本的には, 身体他部の場合も顔面と同様であり, むしろ留意すべき点は顔面より少ない。ただ, 部位によつては, 創縁にかかる緊張の度合いが強いこともあるので, この点に注意すれば, 好結果が期待できる。以上の点に関して, 我々のわずかばかりの経験をもとに, 述べてみたい。